



学校便り

No. 2

# 夢・挑戦

令和元年6月21日

水俣市立水俣第二中学校

校長 高橋 裕二

## 二中の底力を見せ、二中の風を！！

いよいよ明日から中体連総体が開催されます。大会では初戦がとても大事です。1試合勝つと調子が上がって、本来の力が発揮できると思います。3点お願いします。

1点目は、絶対に勝つんだという強い気持ちをもつことです。試合の途中、負けていて、あきらめた気持ちになると、自分にもチームにもマイナスの影響がでます。絶対に勝つ、そして、決してあきらめないことです。

2点目は、自分の力を発揮することです。負けるときは、ミスして自滅して負ける場合が多いと思います。力



を発揮するためには、準備が必要です。技術やパワーは今からではどうにもなりません。頭と心の準備は今からでも遅くはありません。相手の攻撃を予想したり、自分のところにきたら何をするか、2つ3つ考えておくのです。無心では絶対に勝てません。また、心は燃えながらも、感情のムラを無くし、冷静に戦うのです。対戦相手の顔や目、表情を見る心の余裕がほしいところです。

3点目は、感謝することです。①一緒に練習した仲間。②保護者・家族の方。③指導してくださった先生方やコーチ。先生方は専門の先生ばかりではありませんが、放課後や土日の練習を指導していただきました。④当日の審判の方。お世話になった方への感謝の気持ちを、最高のプレイで表してください。

最後に、試合に出ない人もたくさんいると思います。控え選手だった経験は、これからの財産になると思います。多くの大人が、人が気づかない中で、つらく大変な仕事を、黙々と地道にやっておられます。それでは、初戦を突破して県大会出場を目指し、二中の底力を見せ、二中の風を吹かせてください。

## みんなちがって、みんないい

徳島県教育委員会の元人権教育課長で、元校長の稲村健一先生の講話の内容を紹介します。

### 【現代っ子の気になる特徴】

- ・すぐに「キモイ」「ウザイ」などの言葉が出て、自分の思いや気持ちを言葉で表せない。語彙力が不足している。相手の話を聞く力がない。
- ・人間関係が育っていないのは当然。少子化で一人っ子が多く、地域に友達がいないことが多い。
- ・判断基準は「自分」でなく、「みんな」。「みんなと一緒に」は安心感がある。
- ・日本の子どもは、テレビ等の視聴時間が世界一。
- ・子どもは社会を映し出す鏡。子どもが勝手に変わることはあり得ない。

### 【人権教育とは】

- 人権教育は、人間がいかに尊い存在であるかを、ありとあらゆる手立てで体得していく教育。
- いずれの人権課題も重要度を比較することはできない。いずれの人権課題に序列や軽重を設けてはならない。「あえて主役は」というなら、すべての人権課題である。
- 自分がされていやなことを、自分はしていないか。いじめや差別などは、学校の中で必ず起きる。
- 目と目、顔を向きあい会話や対話をする。テレビが会話を障害。全員揃った食事をしているか。
- 人権教育に、「もうこれでよい」はない。生涯学び続ける。予防教育（手段）でも、差別を「しない、させない、許さない」の禁止教育でもない。
- 人権教育を一言でいえば、人を大切にする教育
- 「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞ）

6月8日土曜授業後、自転車で帰宅していると、武道館近くで釣りをしている1年生を見かけました。生徒の隣に行くと、10秒もしないうちにチヌがかりました。大きなチヌだったので、岸までやっと引き寄せましたが、水深5cmのところで針が外れました。困っていると、カヌーを練習中の方が来られ、チヌに針をかけて生徒に渡してくれました。4月に魚が釣れたらもらう約束をしていましたので、1時間後、生徒が母親と一緒に3枚におろした刺身をもらいました。50cmのチヌだったそうです。とても美味しかったです。